

 TOYO SUISAN

東洋水産株式会社

証券コード：2875

東洋水産から株主の皆様へ

# 第63期決算のご報告

2010年4月1日～2011年3月31日



**Smiles for All.**

すべては、笑顔のために。

# 株主の皆様へ



代表取締役社長 **堤 殷**  
つつみ ただす

はじめに、東日本大震災により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

さて株主の皆様におかれましては、日頃よりご支援を賜り、心より感謝申し上げます。当社第63期(2011年3月期)の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は1953年の創業以来60年近くにわたり、顧客第一主義に基づき、「お客様により良い商品、サービスを提供することにより社会に貢献する」べく、創業時の水産物に始まり、1956年の魚肉ハム・ソーセージ、1962年のインスタント袋麺、1975年の生麺「3食入り焼そば」、1978年の「赤いきつね」並びに1980年の「緑のためぎ」の発売などマルちゃんブランドのもと、「安全でお

いしい商品」「確実なサービス」をお客様にお届けすることを心掛けてまいりました。

グローバル化の進展により、これまでの産業構造が大きく変化している現在、食品業界は、個人消費の低迷、原材料価格の高騰、販売競争の激化と大変厳しい環境にあります。今後も法令を遵守し、「安全」、「安心」な商品をお客様にお届けするという基本を守るとともに、さらなる発展を目指し、消費者ニーズにマッチした新商品の開発並びに育成、生産・販売・物流体制の効率化など「将来の収益確保」「経営効率の向上」を進めてまいり所存です。

これからも株主の皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2011年6月

## 営業の概況

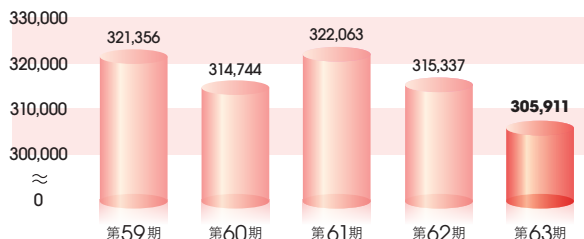
当連結会計年度におけるわが国経済は、輸出の増加や経済対策効果による景気の持ち直しから、企業業績の改善がみられ緩やかな回復基調で推移しましたが、東日本大震災

により厳しい局面を迎え、景気の先行きに深刻な影響が懸念される状況となりました。また、全国的な電力不足が経済活動の大きな制約になることも懸念されています。

## 連結決算ハイライト

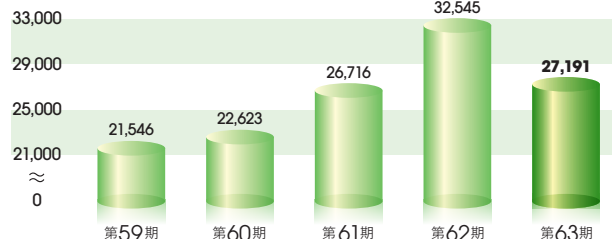
### 売上高の推移 (百万円)

売上高 **305,911** 百万円



### 経常利益の推移 (百万円)

経常利益 **27,191** 百万円





当食品業界においては、一部原材料価格が引き続き高水準で推移する中、製造コストの削減を迫られる等企業間競争は一層激しさを増し、依然として厳しい状況が続いております。また、消費者の食の安全面に対する意識はより一段と高まり、当業界は今まで以上に品質管理の強化への対応、環境問題への対応等企業の社会的責任がますます求められております。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品と

サービスを提供する」ことを責務と考え取り組んでまいりました。また、厳しい販売競争に対応するため、グループの生産・物流体制の再構築を進め、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高は 305,911 百万円（前年同期比 3.0%減）、営業利益は 25,811 百万円（前年同期比 17.1%減）、経常利益は 27,191 百万円（前年同期比 16.5%減）、震災による特別損失を計上した結果、当期純利益は 12,415 百万円（前年同期比 32.9%減）となりました。

## 次期の見通し

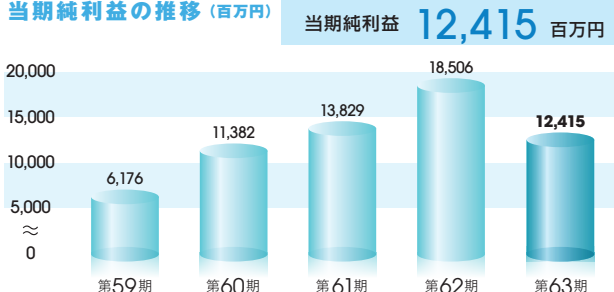
次期（2012年3月期）の見通しにつきましては、海外経済の改善を背景に景気の持ち直し傾向が期待されておりますが、依然として雇用情勢に厳しさが残り、デフレや東日本大震災の影響等景気を下押しするリスクも存在しております。

当食品業界におきましては、個人消費の持ち直し傾向も見られるものの、消費者の生活防衛意識や低価格志向が続く中で、市場環境は厳しい状況にあります。また、食の安全・安心等企業の社会的責任がますます求められていくものと考えております。当社グループにおきましては、

さらに地域別・商品別の販売促進を強化した積極的な営業活動を実施してまいります。また、費用面でもより厳しい販売競争に対応するため、物流の再構築・生産部門での徹底したコストの削減に注力していく所存であります。

以上により、通期の売上高は 312,000 百万円、営業利益は 24,000 百万円、経常利益は 25,000 百万円、当期純利益は 14,500 百万円を見込んでおります。なお、対米ドルの換算為替レートは 80.00 円を想定しております。

### 当期純利益の推移（百万円）



### 次期見込（2012年3月期）

連結売上高 **312,000** 百万円

連結経常利益 **25,000** 百万円

連結当期純利益 **14,500** 百万円

## 国内即席麺事業



▶ 売上高 **101,755** 百万円

国内即席麺事業は、主力の和風麺、「麺づくり」等の底上げと、新ブランドや新製法を採用した新製品を積極的に投入したことにより売上を伸ばしました。基幹商品である和風麺では、「緑のためぎ天そば」の30周年キャンペーン等を展開しました。2月には麺質を大きく改良した新製法のとやもち麺を採用した「昔ながらのソース焼そば」を積極的に販売いたしました。また、前年の3月に発売した新

ブランド「四季物語」や大盛カップ麺「ごつ盛り」の実績が上乘せされたことにより、カップ麺全体で前年を大きく上回る結果となりました。袋麺においては、主力の「昔ながらの中華そば」等が健闘しましたが、夏場の猛暑の影響等もあり、袋麺全体では前年を下回る結果となりました。その結果、売上高は101,755百万円(前年同期比4.9%増)となりました。セグメント利益は、販売促進費の増加及び関東工場の減価償却費の増加により、11,640百万円(前年同期比5.7%減)となりました。

## 低温食品事業



▶ 売上高 **63,378** 百万円

低温食品事業は、生麺は市場の縮小に歯止めがかからず厳しい環境の中、商品価値の向上を目指し、消費者キャンペーンや新しい喫食シーンの創造につながる商品開発を進めてまいりましたが、主力品である3食焼そば類、3食生ラーメン類が競合品との価格競争により苦戦し、前年を下

回る結果となりました。冷凍食品類は、市販用冷食・冷凍野菜は順調に推移いたしましたが、冷凍麺の売上減少を補えませんでした。その結果、売上高は63,378百万円(前年同期比2.9%減)となりました。セグメント利益は、記録的な猛暑により冷しラーメン類が好調に推移したことに加え、つけ麺類の売上が拡大したことにより4,287百万円(前年同期比2.9%増)となりました。

## 加工食品事業



▶ 売上高 **18,333** 百万円

加工食品事業は、米飯事業は震災で製造工場が被災し減収となりましたが、魚肉ハム・ソーセー

ジは原材料の高騰に対応し適正価格での販売に努めました。この結果、売上高は18,333百万円(前年同期比5.3%減)、セグメント利益は543百万円(前年同期比14.7%減)となりました。

## 海外即席麺事業



▶ 売上高 **50,191** 百万円

海外即席麺事業は、7月より積極的な販売促進活動を行った結果、販売数量は前年並みを達成いたしました。しかし、販売促進策と円高の影響で、

売上高は50,191百万円(前年同期比15.3%減)となりました。セグメント利益は、販売促進や世界的商品相場の上昇の結果、主原材料、運賃等のコストの増加、さらに円高の影響も加わり7,447百万円(前年同期比38.6%減)となりました。



## 水産食品事業



▶ 売上高 **33,355** 百万円

水産食品事業は、世界的な市況の回復が顕著になる中、欧米・ロシア・中国に代表される海外勢の需要が強くなり、日本の商社・水産メーカー等が相場の高い原材料を輸入販売することを余儀なくされました。一方、日本国内市況は、相変わらずの低価格、販売競争の激化は続いており、非

常に厳しい年度となりました。そのような状況の中、既存・新規取引先を含め、得意商品である鮭・魚卵・マグロ・すり身等を中心に積極的な販売に努めた結果、売上高は33,355百万円(前年同期比0.1%減)となりました。セグメント利益は、鮭・魚卵・南方魚の新規商品開発等が貢献したことにより707百万円(前年同期比81.6%増)となりました。

## 冷蔵事業



▶ 売上高 **12,842** 百万円

冷蔵事業は、景気低迷による個人消費の落ち込みの影響を受け、荷主の在庫圧縮が続いたことから全国的に在庫量が減少しました。また、猛暑の影響によりアイスクリーム類の取り扱いが活発で、出庫

が高水準で推移したことにより保管料収入は減少しましたが、積極的な営業活動により在庫量が増加したため、入出庫料収入は順調に推移し収益の下支えをしました。この結果、売上高は12,842百万円(前年同期比0.8%減)、セグメント利益は550百万円(前年同期比37.6%減)となりました。

## その他事業

▶ 売上高 **26,054** 百万円

その他事業は、主に弁当・惣菜事業及び不動産賃貸事業であります。売上高は26,054百万円(前年同期比7.4%減)、セグメント利益は635百万円(前年同期比12.2%増)となりました。

### セグメント情報の区分及び測定方法について

当連結会計年度より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。

### 事業セグメント別売上高構成比



1. 国内即席麺事業	33.26%	101,755	百万円	5. 水産食品事業	10.90%	33,355	百万円
2. 低温食品事業	20.72%	63,378	百万円	6. 冷蔵事業	4.20%	12,842	百万円
3. 加工食品事業	5.99%	18,333	百万円	7. その他事業	8.52%	26,054	百万円
4. 海外即席麺事業	16.41%	50,191	百万円				

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度末 (2011.3.31 現在)	前連結会計年度末 (2010.3.31 現在)	
資産の部	<b>流動資産</b> ◀ <b>POINT01</b>	<b>118,724</b>	<b>108,609</b>
	現金及び預金	34,648	31,134
	受取手形及び売掛金	39,785	39,004
	繰延税金資産	1,925	1,651
	その他	42,886	37,360
	貸倒引当金	△524	△543
	<b>固定資産</b> ◀ <b>POINT02</b>	<b>113,808</b>	<b>120,633</b>
	有形固定資産	95,499	101,709
	無形固定資産	1,727	2,169
	投資その他の資産	16,581	16,754
<b>資産合計</b>	<b>232,532</b>	<b>229,242</b>	
負債の部	<b>流動負債</b> ◀ <b>POINT03</b>	<b>41,995</b>	<b>41,939</b>
	<b>固定負債</b> ◀ <b>POINT04</b>	<b>17,729</b>	<b>17,014</b>
	<b>負債合計</b>	<b>59,725</b>	<b>58,954</b>
純資産の部	<b>株主資本</b>	<b>178,143</b>	<b>170,350</b>
	資本金	18,969	18,969
	資本剰余金	22,516	22,516
	利益剰余金	144,769	136,951
	自己株式	△8,111	△8,086
	<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△15,018</b>	<b>△9,340</b>
	その他有価証券評価差額金	△432	364
	繰延ヘッジ損益	168	197
	為替換算調整勘定	△14,755	△9,902
	<b>少数株主持分</b>	<b>9,682</b>	<b>9,278</b>
	<b>純資産合計</b> ◀ <b>POINT05</b>	<b>172,807</b>	<b>170,288</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>232,532</b>	<b>229,242</b>	

## 連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結累計期間 2010.4.1～2011.3.31	前連結累計期間 2009.4.1～2010.3.31
<b>売上高</b>	<b>305,911</b>	<b>315,337</b>
売上原価	191,118	195,467
<b>売上総利益</b>	<b>114,793</b>	<b>119,870</b>
販売費及び一般管理費	88,982	88,748
<b>営業利益</b>	<b>25,811</b>	<b>31,121</b>
営業外収益	1,658	1,702
営業外費用	278	279
<b>経常利益</b>	<b>27,191</b>	<b>32,545</b>
特別利益	501	158
特別損失	5,965	1,900
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>21,727</b>	<b>30,802</b>
法人税、住民税及び事業税	9,147	11,586
法人税等調整額	△484	△85
<b>少数株主損益調整前当期純利益</b>	<b>13,064</b>	<b>—</b>
少数株主利益	648	796
<b>当期純利益</b>	<b>12,415</b>	<b>18,506</b>

## 連結包括利益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結累計期間 2010.4.1～2011.3.31	前連結累計期間 2009.4.1～2010.3.31
少数株主損益調整前当期純利益	13,064	—
その他の包括利益	△5,686	—
<b>包括利益</b>	<b>7,378</b>	<b>—</b>
(内訳) 親会社株主に係る包括利益	6,737	—
少数株主に係る包括利益	640	—

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結累計期間 2010.4.1～2011.3.31	前連結累計期間 2009.4.1～2010.3.31
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b> ◀ <b>POINT06</b>	<b>28,120</b>	<b>29,254</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b> ◀ <b>POINT07</b>	<b>△10,268</b>	<b>△25,272</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b> ◀ <b>POINT08</b>	<b>△6,188</b>	<b>△5,724</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,256	△1,250
現金及び現金同等物の増減額	9,407	△2,992
現金及び現金同等物の期首残高	46,545	49,537
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>55,952</b>	<b>46,545</b>





## 連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
2010年3月31日残高	18,969	22,516	136,951	△8,086	170,350	364	197	△9,902	△9,340	9,278	170,288
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△4,598		△4,598						△4,598
当期純利益			12,415		12,415						12,415
自己株式の取得				△24	△24						△24
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						△796	△28	△4,852	△5,678	404	△5,273
連結会計年度中の変動額合計	-	-	7,817	△24	7,792	△796	△28	△4,852	△5,678	404	2,518
2011年3月31日残高	18,969	22,516	144,769	△8,111	178,143	△432	168	△14,755	△15,018	9,682	172,807

## 連結財務諸表 POINT

POINT

### 01 流動資産

流動資産は、前連結会計年度に比べ 10,115 百万円 (9.3%) 増加し、118,724 百万円となりました。これは主に、現金及び預金、有価証券が増加したことによるものであります。

POINT

### 02 固定資産

固定資産は、前連結会計年度に比べ 6,825 百万円 (5.7%) 減少し、113,808 百万円となりました。これは主に、東日本大震災により被災した建物及び構築物、土地が減少したことによるものであります。

POINT

### 03 流動負債

流動負債は、前連結会計年度に比べ 56 百万円 (0.1%) 増加し、41,995 百万円となりました。これは主に、未払消費税等が増加したことによるものであります。

POINT

### 04 固定負債

固定負債は、前連結会計年度に比べ 714 百万円 (4.2%) 増加し、17,729 百万円となりました。これは主に、退職給付引当金が増加したことによるものであります。

POINT

### 05 純資産

純資産は、前連結会計年度に比べ 2,518 百万円 (1.5%) 増加し、172,807 百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。

POINT

### 06 営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度に比べ 1,134 百万円減少し、28,120 百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の減少によるものであります。

POINT

### 07 投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ 15,004 百万円減少し、10,268 百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出の減少によるものであります。

POINT

### 08 財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ 463 百万円増加し、6,188 百万円となりました。これは主に、配当金の支払額が増加したことによるものであります。

# 個別財務諸表



## 個別貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当事業年度末 2011.3.31	前事業年度末 2010.3.31
<b>資産の部</b>		
流動資産	82,515	77,682
固定資産	98,943	102,872
有形固定資産	70,209	73,595
無形固定資産	1,583	1,745
投資その他の資産	27,151	27,532
<b>資産合計</b>	<b>181,458</b>	<b>180,555</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	68,074	68,516
固定負債	12,576	11,678
<b>負債合計</b>	<b>80,650</b>	<b>80,195</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	101,306	100,078
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,516	22,516
利益剰余金	69,696	68,442
自己株式	△9,875	△9,850
評価・換算差額等	△498	282
その他有価証券評価差額金	△500	278
繰延ヘッジ損益	1	3
<b>純資産合計</b>	<b>100,808</b>	<b>100,360</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>181,458</b>	<b>180,555</b>

## 個別損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当事業年度 2010.4.1～2011.3.31	前事業年度 2009.4.1～2010.3.31
<b>売上高</b>	<b>214,861</b>	<b>213,538</b>
売上原価	125,741	125,229
<b>売上総利益</b>	<b>89,119</b>	<b>88,308</b>
販売費及び一般管理費	76,162	75,310
<b>営業利益</b>	<b>12,957</b>	<b>12,997</b>
営業外収益	2,412	2,809
営業外費用	530	510
<b>経常利益</b>	<b>14,838</b>	<b>15,297</b>
特別利益	331	562
特別損失	5,128	1,548
<b>税引前当期純利益</b>	<b>10,041</b>	<b>14,310</b>
法人税、住民税及び事業税	4,516	4,944
法人税等調整額	△329	54
<b>当期純利益</b>	<b>5,853</b>	<b>9,311</b>

## 個別株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本										評価・換算差額等			純資産合計		
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益		評価・換算差額等合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金							利益剰余金合計
2010年3月31日残高	18,969	20,155	2,360	22,516	2,593	638	6,071	42,000	17,139	68,442	△9,850	100,078	278	3	282	100,360
事業年度中の変動額																
特別償却準備金の積立						351				△351						
特別償却準備金の取崩						△91				91						
固定資産圧縮積立金の積立							13			△13						
固定資産圧縮積立金の取崩							△149			149						
剰余金の配当										△4,600	△4,600	△4,600				△4,600
当期純利益										5,853	5,853	5,853				5,853
自己株式の取得											△24	△24				△24
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)													△779	△1	△780	△780
<b>事業年度中の変動額合計</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>259</b>	<b>△135</b>	<b>-</b>	<b>1,129</b>	<b>1,253</b>	<b>△24</b>	<b>1,228</b>	<b>△779</b>	<b>△1</b>	<b>△780</b>	<b>447</b>
2011年3月31日残高	18,969	20,155	2,360	22,516	2,593	898	5,935	42,000	18,269	69,696	△9,875	101,306	△500	1	△498	100,808





おかげさまで

即席麺事業

50

周年

1961年、当時業績を支えていた魚肉ハム・ソーセージは冬場の需要が低いことが悩みの種でした。そんな中、ラーメンは冬場が需要期であること、また魚肉ハム・ソーセージの技術を応用して製造できることに着目し、即席麺事業に進出しました。それから50年の歴史を振り返ります。



東洋水産初の即席麺  
「マルト印ラーメン味付け」  
(1961)



1960~

## 着実にヒット商品を重ね、 お客様の支持を獲得

初のマルちゃんブランド商品「ハイラーメン」(62年)の大ヒットで、即席麺事業は軌道に乗りました。その後、「緑のたぬき」の原点となり、和風麺という新しい流れを作った「たぬきそば」(63年)や、現在もお馴染みの「冷しラーメン」(66年)、「塩ラーメン」(69年)など、袋麺商品を続々と発売し、生産拠点も拡大していきました。

レギュラーサイズ



豆カップ



1980~

## 現在も愛され続けている 定番商品が続々と誕生

「赤いきつね」の発売から2年後の80年に「緑のたぬき」を発売しました。「赤」と補色関係にある「緑」を採用したインパクトのあるパッケージで、店頭での存在感を高めました。また80年代は、ミニサイズの「豆カップシリーズ」(85年)や、大盛サイズの「でかまる」(89年)など、食シーンに合わせて大小様々なサイズ展開のカップ麺を発売しました。



1970~

## マルちゃんブランドを 牽引する大ヒット商品が登場

「ホットラーメン」(74年)を皮切りに即席カップ麺の開発が進みました。業界初となる「きつねうどん」(75年)は、「天ぷらそば」(75年)と共に大ヒットし、後の「赤いきつね」「緑のたぬき」の前身となりました。78年に発売した「赤いきつね」は、武田鉄矢氏出演のCMも話題となり、マルちゃんブランドの看板商品となりました。



1990~

## ノンフライ麺のラインナップで、 ファン層をさらに拡大

「麺づくり」(92年)や「昔ながらの中華そば」(97年)など、90年代はノンフライ麺の人気定番商品が生まれました。フライ麺とは異なる食感でファンを開拓し、即席麺事業を支える大きな柱のひとつに成長しました。隠れた人気商品「ワンタン しょうゆ味」を発売したのもこの時期です(93年)。



2000~

## 新しい発想で商品開発。 お客様にさらなる満足を

「赤いきつね」は発売当初より東西で味を変えていましたが、地域の嗜好により細かく対応するため、01年に関西限定、05年に北海道限定の味を発売しました。また、簡便性とボリュームを追求した「本気盛(マジモリ)」(07年)や、日本の四季をカップ麺で表現した「四季物語」(10年)など、新しい発想で商品の開発に取り組んでおります。





## 会社概要

### 創立

1953年3月25日

### 本社

〒108-8501

東京都港区港南二丁目13番40号

電話 (03)3458-5111(代表)

### 資本金

189億6,952万円

### 従業員数

1,909人

### 事業所数

工場8、冷蔵庫14、

支店・営業所28

### 関係会社

33社(海外8社含む)

## 役員 (2011年6月28日現在)

代表取締役社長	堤	殷
代表取締役専務	織田	睦彦
専務取締役	小畑	一雄
常務取締役	手嶋	専市
常務取締役	吉野	廣治
常務取締役	近藤	英次
取締役	山内	寛
取締役	三浪	博行
取締役	菅原	謙二
取締役	下井	敦美
取締役	及川	雅晴
取締役	藤谷	忠
取締役	吉村	功
取締役	今村	将也
取締役	山本	和夫
取締役	市島	久夫
取締役	飯塚	修
取締役	住本	憲隆
常勤監査役	山下	透
常勤監査役	南	守之
社外監査役	高良	明
社外監査役	森	勇

## 支店・営業所

- ◆札幌支店 (札幌営業所、旭川営業所、函館営業所、帯広営業所)
- ◆東北支店 (仙台営業所、青森営業所、盛岡営業所、秋田営業所、福島営業所、山形営業所)
- ◆信越支店 (新潟営業所、長野営業所)
- ◆北関東支店 (栃木営業所、茨城営業所、群馬営業所)
- ◆東京支店 (東京営業所、千葉営業所、埼玉営業所、神奈川営業所、甲府営業所)
- ◆静岡支店
- ◆名古屋支店 (名古屋営業所、金沢営業所)
- ◆大阪支店
- ◆中四国支店 (中国営業所、四国営業所)
- ◆福岡支店 (福岡営業所、沖縄営業所)

## 冷蔵庫

- ◆札幌冷蔵庫
- ◆石狩冷蔵庫
- ◆大井埠頭冷蔵庫
- ◆平和島冷蔵庫
- ◆城南島冷蔵庫
- ◆東扇島第一冷蔵庫
- ◆東扇島第二冷蔵庫
- ◆東扇島第三冷蔵庫
- ◆名古屋冷蔵庫
- ◆中部物流センター
- ◆神戸冷蔵庫
- ◆舞洲冷蔵庫
- ◆福岡冷蔵庫
- ◆佐賀冷蔵庫

## 工場

- ◆札幌工場 ◆関東工場 ◆埼玉工場 ◆相模工場 ◆焼津工場 ◆田子工場 ◆神戸工場 ◆福岡工場

## 主要グループ企業

### 国内連結子会社

- ◆八戸東洋株式会社 ◆甲府東洋株式会社 ◆フクシマフーズ株式会社 ◆東洋冷凍株式会社
- ◆サンリク東洋株式会社 ◆株式会社酒悦 ◆新東物産株式会社 ◆伊万里東洋株式会社
- ◆株式会社フレッシュダイナー ◆株式会社東京商社 ◆銚子東洋株式会社
- ◆ユタカフーズ株式会社 ◆石狩東洋株式会社 ◆ミツワデイリー株式会社

### 海外連結子会社

- ◆MARUCHAN, INC. ◆MARUCHAN VIRGINIA, INC.
- ◆MARUCHAN DE MEXICO, S.A. de C.V. ◆SANMARU DE MEXICO, S.A. de C.V.
- ◆PAC-MARU, INC.

### 非連結子会社 他

- ◆ヤイズ新東株式会社 ◆三幸養魚株式会社 ◆埼玉東洋株式会社 ◆湘南東洋株式会社
- ◆東和エステート株式会社 ◆スルガ東洋株式会社 ◆下田東水株式会社
- ◆海南東洋水産有限公司(中国) ◆湛江東洋水産有限公司(中国)
- ◆株式会社いらご研究所 ◆青島味豊調味食品有限公司(中国) ◆仙波糖化工業株式会社\*
- ◆ヒガシマルインターナショナル株式会社 ◆株式会社シマヤ

\*持分法適用関連会社



## 株式の状況

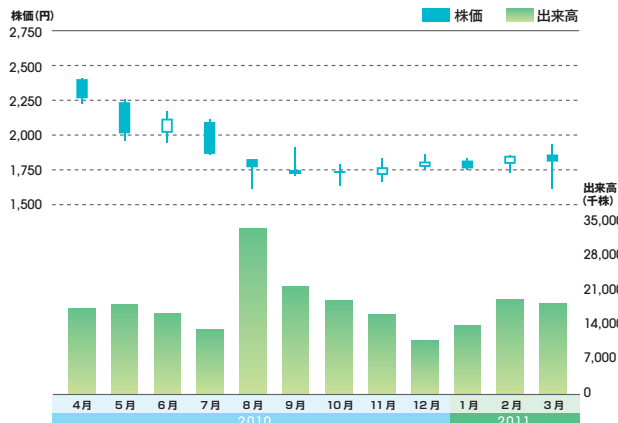
発行可能株式総数…………… 427,000,000 株  
 発行済株式の総数…………… 110,881,044 株  
 株主数…………… 6,469 名

## 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	7,264	7.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,068	4.95
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口9)	4,692	4.59
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	4,409	4.31
株式会社三井住友銀行	2,935	2.87
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー リニューエスタックスエグゼンテッドベンションファンズ	2,822	2.76
マルちゃん持株会	2,056	2.01
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	2,014	1.97
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーションビー・リミテッド	1,835	1.79
株式会社榎本武平商店	1,659	1.62

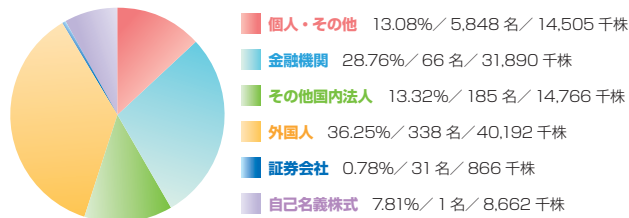
(注) 出資比率は自己株式(8,662,297株)を控除して計算しております。  
 (注) 出資比率は小数点以下第2位未満を四捨五入して計算しております。

## 株価及び売買高の推移 (東京証券取引所)



## 株式分布状況

### 所有者別



### 所有株数別



## 株主優待制度



3,000円相当の製品例

当社では、株主の皆様への利益還元策の一環として、ご所有の株式数に応じて自社製品の詰め合わせを進呈する株主優待制度を導入しています。

今年につきましては、3月未現在、1,000株以上ご所有の株主様に対し3,000円相当の自社製品を、3,000株以上ご所有の株主様に対し5,000円相当の自社製品を、それぞれ6月に進呈させていただきました。

## ●株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	期末配当は3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
公告方法	電子公告 ただし電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 アドレス <a href="http://www.maruchan.co.jp/">http://www.maruchan.co.jp/</a>
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに 日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)

## ●株式に関する各種手続きについて

### ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受領方法の指定等

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ・特別口座から証券会社の口座への振替申請

特別口座の株式については、単元未満株式の買取請求を除き売買ができません。売買を行う場合は証券会社の口座への振替が必要になります。手続きの詳細は、上記「株主メモ」記載の電話照会先にご確認ください。

### ・未払配当金の支払請求

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ゆうちょ銀行の貯金口座で配当金をお受取いただけます

配当金の振込先として、銀行等の預金口座に加えて、ゆうちょ銀行の貯金口座もご指定いただけます。

希望される場合は、株主様の口座のある証券会社にお申出ください。特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

## 製品を通じた社会貢献

### MSC 認証の取得



当社で取り扱っているアラスカ産のイクラ及びノルウェー産のサバ加工品の一部には、海のエコラベルともいわれるMSCラベルが貼付されています。これは持続可能性を保持した漁業により漁獲され適正な方法で製造された製品であることを、海洋管理協議会(MSC)によって認証されたことを表しています。当社は加工・流通業者としての認証を受けています。

生物多様性に対する取り組みへの関心が高まる中、お客様の間に少しずつ浸透し、ご支持をいただいています。

### 北海道産の推進



北海道エリアで販売されている商品では、積極的に北海道産の原料を使用し、ご好評をいただいています。北海道事業部の独自商品として開発され、札幌工場で製造している「あんかけ風やきそば弁当」には、麺に独特の食感と風味を持たせるため、道内産の米粉を使用しています。また、「ほっけソーセージ」には北海道産ほっけのすり身を100%使用しています。

**TOYO SUISAN**  
**東洋水産株式会社**

住所 〒108-8501 東京都港区港南二丁目13番40号  
TEL (03) 3458-5111 (代表)  
ホームページ <http://www.maruchan.co.jp/>



本冊子は、環境保全のため再生紙を使用し、大豆油インキで印刷しています。